

作成: 芝崎

65. サラリーマン時代の思い出篇: 工場見学(明るい環境の職場)その2

- (1) 広島県の「広」という駅のそばに「三豊製作所」があり、精密測定器のマイクロメータを製作している工場を訪問。若い従業員が多く、活気にあふれ、明るい環境のイメージ。
- (2) 現場に入る瞬間、場内アナウンスで「お客様が入場しますので、(見学対応)シフトに入ってください。」でびっくり!こんなところ初めて。私語を慎めとのイメージしか見えなかったが、アナウンスの狙いはわからず。ただ、**明朗闊達**をもとに「オープン」な姿勢はいいなと思う。
- (3) ライン化が進み、層別化が進んでいたのが印象的であった。[1]標準品は専用ライン/自動化を計る。マテハンもエアーを利用して、組立工場迄運ぶ。その自動化ラインの改善、改良、メンテナンスを行うチームがバックアップしている。[2]多種少産のラインには NC 機を活用して製作[3]単品製品/特殊ケース:大型対応とかが多く、熟練工が上手に汎用機を対応し、その特殊条件に対応している。従業員をいかにその才能を生かすように配置している。
- (4) 約 40 年前のことだけに今どこまで進歩しているのかとても気になる。

マ:ま(マ)ったくよくできた、当時としてはメキメキと改善が進んでいる工場だった

イ:い(イ)ろいろと工夫された現場には、いい印象を受ける

クロ:苦(クロ)労してここまでできたのであろうが、若い従業員も生き生き働いている

メー:(メー)カとしての知恵がところどころに出ている

タ:大(タ)切なことは働いている人たちの多々の笑顔であふれていることだ



反面、以前、自動車工場を見学したが、「タクト」化が主流で、例えば、エンジンの組立で組立時間が設定され、まるで同一作業をこなすロボットのような。作業員の表情も無表情。まるで鉄仮面のごとくロボットになりきっている感じがする様子には驚かされた。工場毎にその表情が変わる、**千差万別**の姿がとても印象深い。特に一生働くわけでないが、**破顔一笑**のあふれる工場からはさらなる発展につながる活力となしてほしい。



以上